

Title	「授業改善のためのアンケート」の教員による活用に関する調査研究
Author(s)	齊藤, 貴浩; 早田, 幸政; 中村, 征樹 他
Citation	大阪大学大学教育実践センター紀要. 2011, 7, p. 29-47
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/6041
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

「授業改善のためのアンケート」の教員による活用に関する調査研究

齊藤 貴浩・早田 幸政・中村 征樹・望月 太郎・松河 秀哉

A Survey of Teachers' Use of "Questionnaires for Class Improvement"

Takahiro SAITO, Yukimasa HAYATA, Masaki NAKAMURA, Taro MOCHIZUKI, Hideya MATSUKAWA

Amidst the recent increasing emphasis on university evaluation and educational quality assurance, more and more universities have introduced a class evaluation system based on students' feedback. This system is growing in importance as a measure to not only boost teachers' efforts to improve education, but also to assess students' academic achievement. The Institute for Higher Education Research and Practice launched the "Questionnaires for Class Improvement" in academic year 2002 but has not closely examined whether the questionnaires are working effectively. By surveying teachers who use the evaluation system, this study intends to consider substantial measures for improving Osaka University's general education curriculums with a focus on how to manage the questionnaires and provide web links to FD (faculty development) Workshop materials.

1. はじめに

昨今の大学評価や教育の質保証の流れの中で、どの大学も学生の意見を聴取する「授業評価」を行うようになってきている。授業評価は、よりよい教育を実現するための一つの情報として実施されるものであるが、学生が意見を表明する数少ない機会であることから、“Student Learning Outcome”を把握する手段としてもその重要性が増している

大学教育実践センターでは、共通教育を担当する教員の授業内容・方法の改善の一助とするため、「授業改善のためのアンケート」(以下「授業アンケート」と表記)を平成14年度より実施している。学生は、すべての対象授業について学務情報システム(愛称:KOAN)を用いてweb上で回答し、教員は自らの担当する授業のアンケート結果を授業ごとに閲覧できるようになっている。また、他の教員や学生は、授業科目の種類によって分類された「くくり」ごとに結果を閲覧することができるようになっている。

平成19年度からは、授業アンケートの質問項目数が多すぎるという意見を受け、質問項目を集約した上で継

続実施をしてきているが、その形態が今年で3年目を経過することから、あらためて現行の授業アンケートにおける質問項目やフィードバックの方法等について、その有効性に係る検証を行うことが必要とされた。そこで、高等教育研究開発部門では、『共通教育における「授業改善のためのアンケート」の活用に関する教員意識調査』を企画・実施した。同アンケート調査は、平成21年度前期開講の全学共通教育科目を担当したすべての教員に調査への協力を依頼して実施された。

本アンケート調査の結果は、今後の授業アンケートの在り方や、FDへのリンクなど、大阪大学の共通教育をよりよくするために、あらゆる仕組みをどのように実質的に機能させていくかを検討するための資料となる。授業アンケートの結果を各教員にフィードバックし、組織として共有することにより、共通教育の質的量的向上をどうすれば実現できるかを組織的に論議するための資料となることが期待される。

2. 方法

本アンケートは、平成21年度前期開講の全学共通教

育科目を担当しているすべての教員（原則として非常勤の教員を除く）に協力を依頼し、平成21年12月に実施した。実施側からの連絡は電子メールであり、共通教育担当教員に以下の3つの方法のいずれかを用いて質問紙に回答するよう依頼した。

- （方法1）電子メールに記載されたwebサイトにアクセスして回答する。
- （方法2）電子メールで送ったファイルに回答を入力し、添付ファイルで返信する。
- （方法3）電子メールで送ったファイルを印刷し、回答し、回答用紙を学内便で送る。

なお、回答は無記名とし、個人を特定しない旨を明記した。

調査対象としては授業を基礎としてデータを収集する方法と、教員を基礎としてデータを収集する方法とがありうる。本アンケートの実施に際して、調査に協力していただく教員に過度の負担を強いることはできないため、複数の授業を担当している場合でも回答は1回でよいものとした。その際、質問紙中では、「本調査の趣旨から、ご自身が最も適切と考える授業を1つ選び、ご回答ください。」との指示を行った。

対象となる平成21年度前期の共通教育の授業数は1,846であったが、1人の教員が複数の共通教育の授業を持つ場合も多く、また非常勤講師が担当する授業もあることから、実際に授業を担当した専任教員数はこの数字より少ない。電子メールを送出した教員数は712人であった。

そのうち、webサイトでの回答が126、添付ファイルでの回答が14、学内便での回答が4の、合計144の回答を得た（回収率20.2%、授業ベースだと7.8%）。

質問紙の内容は順に、当該の授業に関する内容、授業アンケートや授業改善の在り方に関する意見、授業アンケートの結果へのアクセス、授業アンケートと質問項目の内容、授業アンケートと授業改善との関係性、および具体的な授業改善の方法、そして最後に授業アンケートにかんする意見記述からなる（参考資料3）。次のセクションでは、これらの調査結果について単純集計を元に考察を行う。

3. 結果

3.1 担当授業に関する記述

担当授業に関する質問とその回答については、まず授業の属性を明らかにするために質問をしたものであり、サンプルに偏りがないかどうかを確かめる必要がある。

まず、「授業の種類」の結果は図1に示したとおりである。j)専門基礎教育科目、a)基礎教養科目がそれぞれ1/4程度を占め、それにf)外国語教育/日本語教育科目、h)基礎セミナーが続いている。この割合は実際とほとんど変わらず、サンプルとして偏りがあまりないデータと言える。

次に「授業で教えられている内容」（図2）については理系の内容が半数を占め、文系の内容、理系文系にとらわれない総合的内容がともに1/4であった。理系の教員、学生が多い現状を表しているものと考えられる。また、「授業の形態」（図3）については、主に講義という回答が6割を占めた。あくまでも各教員が授業アンケートを活用するという前提で、その趣旨に沿って授業の一つ選りでの回答であることから実態とはやや異なる可能

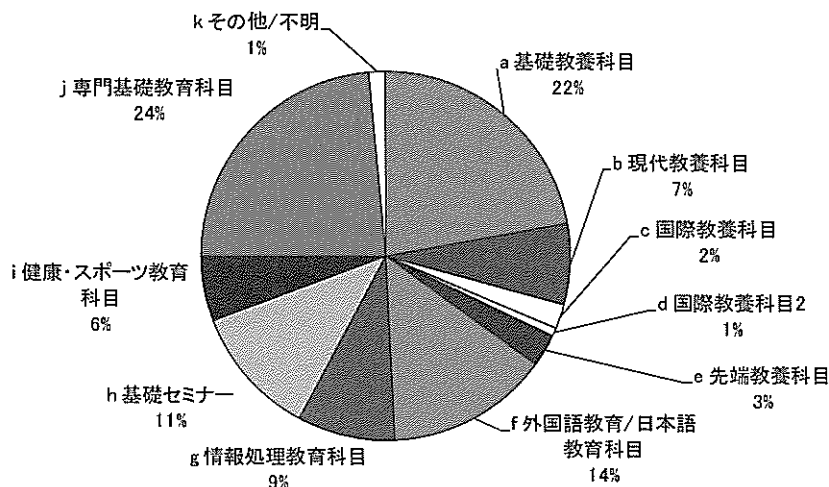


図1 担当した授業の種類（ただし本調査に際して回答したもの）

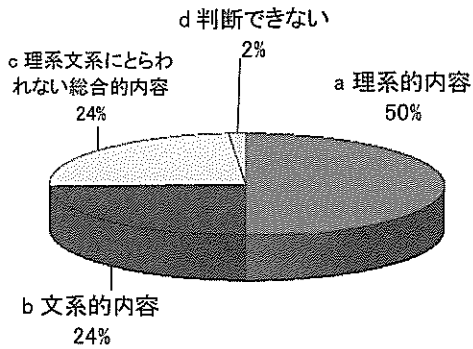


図2 授業の内容

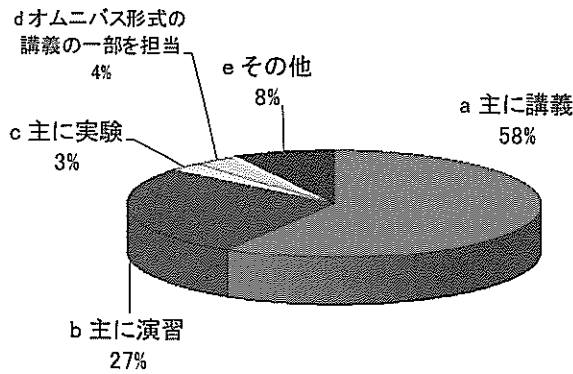


図3 授業の形態

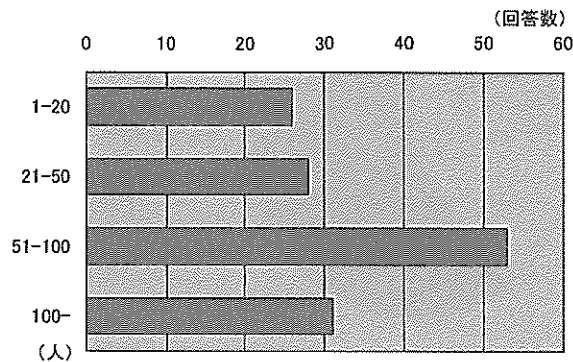


図4 授業の受講生数

性はあるが、さまざまな授業形態をカバーしていることが確認できた。

また、授業を受講している学生数に関しては、1～20人、21～50人、51～100人、100人以上という設定で、おおむね均等に分かれた。学生数に関しても、さまざまな状況をカバーしているということがいえよう。

3.2 授業評価や授業改善の在り方

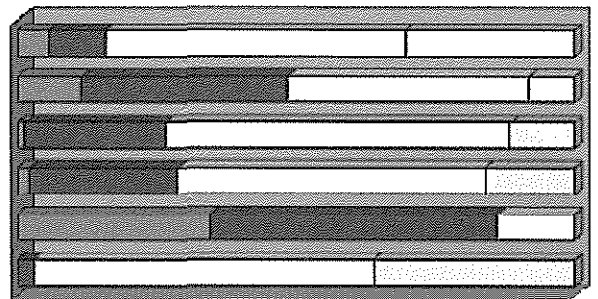
学生による授業アンケート、ならびに授業改善の在り方に関して、授業担当教員がどのような意識を持っているかに関する分析を行った(図5)。

「授業評価の結果に興味」を問うた質問に対し、肯定的回答(「とてもあてはまる」と「まあまああてはまる」の和)が84.2%、また、「日頃から授業改善の努力をしている」に対しては、97.1%もの高い数値を示した。関連して、この質問のほぼ反対の内容で質問した、授業を「そもそも改善する必要がないと思う」かとの問いについては、否定的回答(「とてもあてはまる」と「まあまああてはまる」の和)が13.9%に留まり、自身の授業の改善の必要性を認める教員が大半を占めた。

これらのことから、多くの教員は授業評価の結果に興味を持ち、そして日頃から授業改善の努力をしているということが出来る。ただし、本アンケートに回答した教員であることから、そもそもが授業改善に積極的な教員の意見であるとも考えることができ、「自分の授業を改善する必要がない」という教員の意見は聴取できなかったとも考えられる。

また、「授業改善は学生の意見を基にして行われるべきではない」との質問に対しては、肯定的意見が51.4%、否定的意見が48.6%であり、ほぼ拮抗した形となった。このことは、「授業アンケートだけでなく学生の意見を常に取り入れて」授業改善を図っているかどうか

学生による授業評価の結果に興味がある
 授業改善は学生の意見を基にして行われるべきではない
 授業評価だけでなく学生の意見を常に取り入れている
 授業の改善は教員自らが自らの教育観で行うべきである
 自分の授業はそもそも改善する必要がないと思う
 自分の授業に関しては日頃から授業改善の努力をしている



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■まったくあてはまらない ■あまりあてはまらない □まあまああてはまる □とてもあてはまる

図5 授業アンケートや授業改善の在り方に関する教員の意識

かの問いに対し、肯定的意見が73.4%、そして授業改善は「教員自らが自らの教育観で行うべき」かどうかという問いに対して、肯定的意見が71.2%という、二つの質問に対する回答から解釈が可能である。すなわち、決して学生の意見を入れないというのではなく、自分の教育観を基にした授業改善の中で、その進捗や学生の反応を知る手段として授業アンケートや学生の意見を採り入れつつ改善を進めていくという姿が表現されているものと考えられる。

3.3 授業アンケートの結果へのアクセス

学生による授業アンケート結果の教員への提示方法の適切性について分析を行った。自身の担当の授業の学生によるアンケート結果をKOAN上で見ることができることを知っていたかどうかについては、「知っていた」が70.7%であるが、「知らなかった」との回答も29.3%に上った(図6)。このアンケートに回答したという回答者の特性から考えると、認知度が低いと言わざるを得ない。

次に、「知っていた」と回答した者に対して、授業アンケート結果を見る方法の難しさを問うたところ(回答件数:96件)、「簡単」と回答した人が72.9%となった(図7)。KOANで見ることができるということを知って

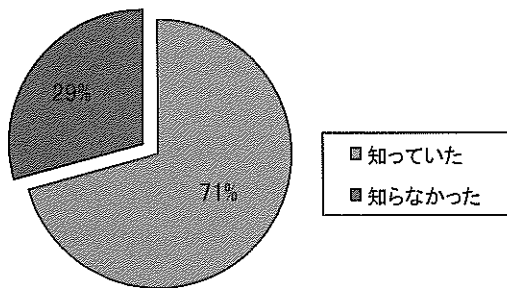


図6 KOANで見ることができることの認知度

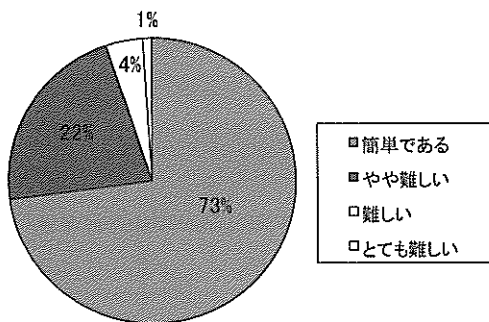


図7 KOANで見ることの難しさ

いる人は、それほど苦もなく授業アンケートの結果まで到達できていると言えよう。むしろ問題は、KOANで見ることができるということを知らなかった人、すなわち、KOANを日頃から使っていない人であるとも考えられる。

しかし、授業アンケート結果を見る手間について問うたところ、「面倒とは感じない」という肯定的意見が58.8%を占める一方で、面倒と感じる人も少なからずいた。

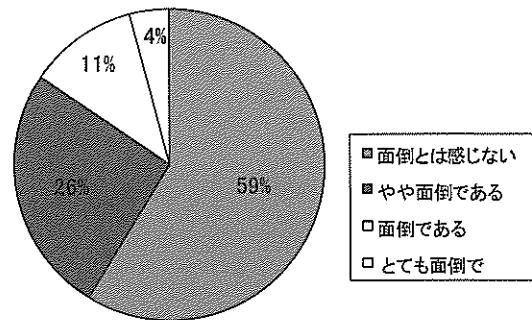


図8 KOANで見ることの手間

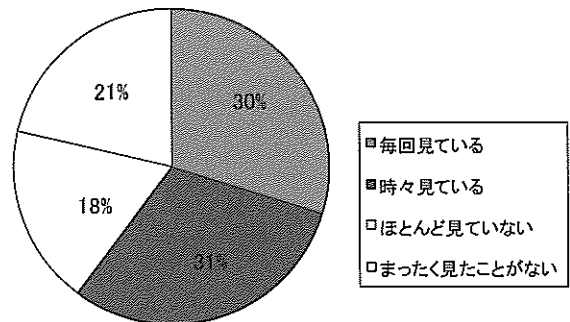


図8 KOANで見ることの頻度

最後に、授業アンケートの結果を、KOANや報告書等によりこれまで見たことがあるかどうかを問うた。「毎回見ている」、「時々見ている」で合計60.3%の教員が授業アンケート結果を適宜見ているのに対し、「ほとんど見ていない」は18.3%、「まったく見たことがない」も21.4%に達した。KOANで見えていないことが、そのまま結果を見たことがないという結果に繋がっており、どのようにアクセスするかという問題があることが示唆される。また、KOANに掲載されていることを知っているでも毎回見えていない人もおり、「面倒」と感じるものが1つの要因になっていると考えられる。

3.4 授業アンケートと質問項目の内容

学生による「授業改善のためのアンケート」の質問内容と量の適切性及びその利用価値についての回答結果を表したものが図9である。

質問内容（項目）の適切性に関しては78.9%が、質問の量（項目数）の適切性に関しては79.8%が肯定的に答えており、比較的に高い数値を示している。これらのことから、授業アンケートの質問項目については、総じて肯定的に捉えられているものと考えられる。

結果のデータとしての信頼性に関しては、63.0%が肯定的に答えているが、結果が学生の意見を十分に集約しているかどうかに関しては、53.2%が肯定的に答えており、否定的な意見も相当数いる。これらのことから、データとしての信頼性は総じて肯定的であると考えられるが、少なからず否定的な意見もある。学生の意見をどの程度「信頼」しているものか、そして様々な意見を「集約」できているかといった意味で、疑問も感じられているものと考えられる。

結果が授業改善に役立っているかどうかに関しては、70.6%が肯定的に答えており、比較的に高い数値を示している。また、結果が教育能力の向上に資するかどうかに関しては、57.8%が肯定的に答えており、否定的に回答した者も相当数いる。結果を授業改善に活かす方法がわからないという質問は反転項目であって、「あてはまらない」と回答した方がよい質問である。そこで、「結果を授業改善に活かす方法がわかる」という事象に対して肯定的なのは、「まったくあてはまらない」と「あまりあてはまらない」であり、両方合わせると75.9%が授業アンケートの結果を授業改善に活かす方法がわかると答えている。

これらのことから、授業改善への有用度、教員の教育能力への効果、および結果を授業改善に活かす方法につ

いては、回答した教員は肯定的意見であることが判明した。あとは否定的に答える者の状況とその理由を究明する必要であり、このことが本アンケートに回答していない人への対応としても有意義なものとなるであろう。

次に、学生による「授業改善のためのアンケート」の質問項目のそれぞれが、どの程度授業改善に役立つと教員が考えているかを表したものが図10である。どれも総合的に見て肯定的に回答を得ている。

授業内容を問う質問項目のうちで、もっとも肯定的回答の割合が大きいのが「教員の話し方、説明の仕方のわかりやすさ」であった。87.2%が肯定的に答えており、かなり高い数値を示している。その次が「情報提示のわかりやすさ（黒板、スライド等）」であり、78.9%である。そして「理解度を深めるための配慮」（74.5%）、「授業の難易度」（73.6%）、「学生とのコミュニケーションの熱心さ」（72.9%）と続く。相対的に割合の低い「授業内容の分量」、「授業の体系性と適切な時間配分」についても、肯定的な割合はそれぞれ68.2%、67.6%であり、2/3を超えている。また、授業内容ではなく授業の全体的な評価を問う項目も、「総合的な授業への満足度」が80.2%、「全体としての授業内容への理解度」が75.5%の肯定的な回答を得ており、非常に有意義と考えられている。「学生による授業への時間通りに出席した割合」（51.4%）、「学生による授業の予習・復習にあてた平均時間」（49.1%）は、学生側の意識に基づくところが大きく、また学生の属性を確認するための項目でもあり、その回答の授業改善への有用性は判断が分かれるところであると言えよう。実際、教員にフィードバックする情報に、この二つの変数は十分に活かされていない。

以上のことから、「学生による授業への時間通りに出席した割合」、および「学生による授業の予習・復習にあてた平均時間」を除き、総じてすべての質問項目に対

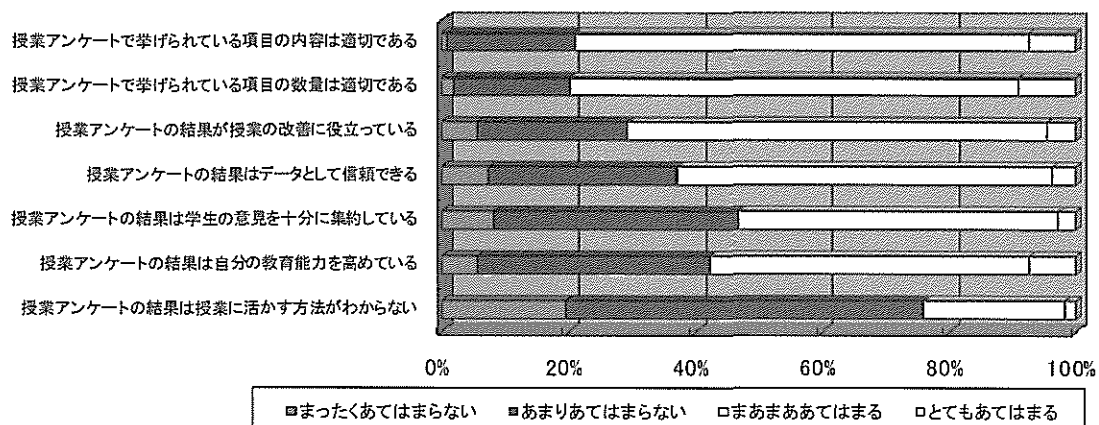


図9 授業アンケートに関する評価

して肯定的な意見が得られたと言える。このことは、過去の授業アンケートの結果から重要な質問項目を抽出したものが原稿の授業アンケートとなっていることから、当然の結果であると言える。出席の割合と予習復習時間は、他の要因との関係性を見るための学生の属性としての質問でもあり、また時系列で分析しない限りは効果の把握できない質問項目であり、この結果はある程度予想通りの結果であると言える。今後は、質問紙に含まれない重要な要因がないかどうかを継続的に確認するとともに、要因間の関連等についての詳細な分析が求められる。

3.5 授業アンケートと授業改善の関係および授業改善の方法

次に、学生による「授業改善のためのアンケート」の結果の授業改善への活用に関する回答の分析を行う。

自身の授業において、「授業アンケート」の結果を参考にどのような授業改善を図ったかという質問（複数回答）を、授業アンケート結果を見たことがある回答者（103名）のみを対象に問うた。その結果、回答が多かった順に列挙すると、「授業内容を分かりやすくするよう心がけながら、授業を進行するようにした」が74（71.8%）、「話し方・説明の仕方に工夫を加えた」が60（58.3%）、「配布資料の内容を充実させ、また、その様式に工夫を加えた」が28（27.2%）、「学生とのコミュニケーションを重視する対話型の授業を積極的に取り入れ

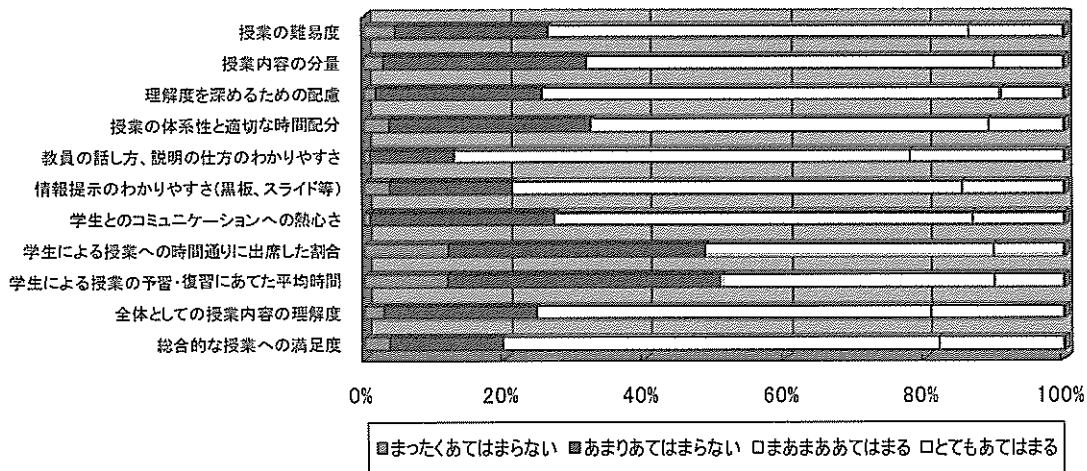


図 10 質問項目が授業改善の参考になった程度

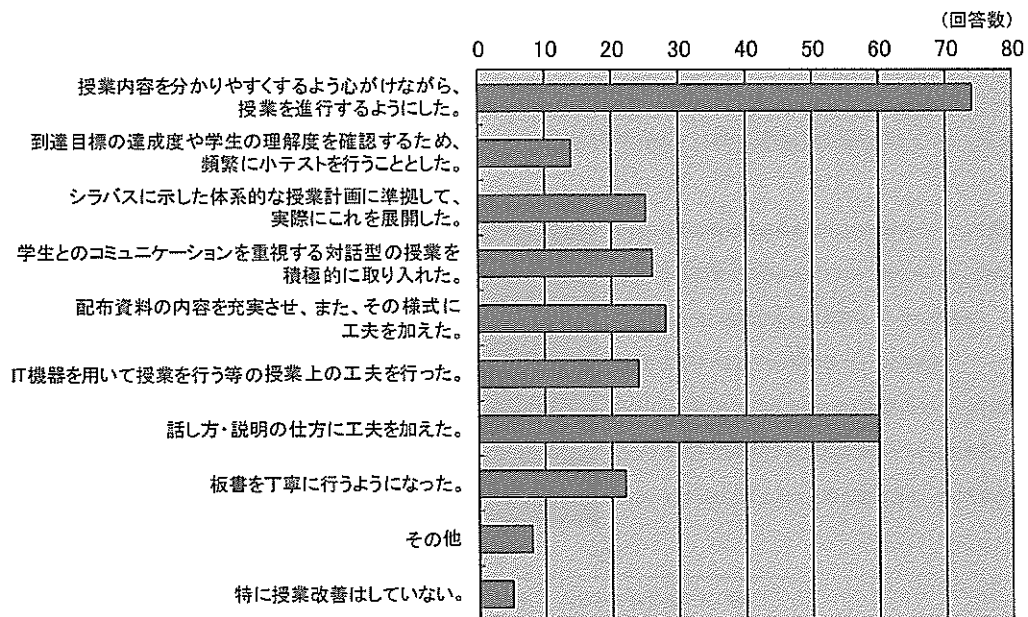


図 11 授業アンケート結果を参考にした授業改善

た」が26 (25.2%)、「シラバスに示した体系的な授業計画に準拠して、実際にこれを展開した」が25 (24.3%)、「IT機器を用いて授業を行う等の授業上の工夫を行った」が24 (23.3%)、「板書を丁寧に行うようになった」が22 (21.4%)、「到達目標の達成度や学生の理解度を確認するため、頻繁に小テストを行うこととした」が14 (13.6%)、「その他」が8 (7.8%)であった。また、「特に授業改善はしていない」という回答は5 (4.9%)であった。

これらの結果から、「授業改善のためのアンケート」の結果が授業改善に幅広く活用されていることが明らかになった。その方法は、授業内容をわかりやすく、そして話し方や説明の仕方を工夫するという基本的なものであり、その他、配付資料や学生とのコミュニケーション等々、様々な手立てや道具でそれをサポートし、改善しているものと考えられる。今後、より教員の授業改善に活かされる授業アンケートの設計として、これらの授業内容や説明の仕方のチェックに重きを置くことも1つの改善方策として考えられる。

次に、学生による「授業改善のためのアンケート」が実際の授業改善への結実に関わることができたかどうか、「授業アンケートの結果を参考にしたことで、授業改善の努力が実際に実を結んだ」かを問う設問に対しての回答は、「とてもそう思う」が3 (2.9%)、「まあまあそう思う」が67 (63.8%)と、全体の66.7%が肯定的回答であった。他方、「あまりそう思わない」が31 (29.5%)、「まったくそう思わない」が4 (3.8%)となった。授業

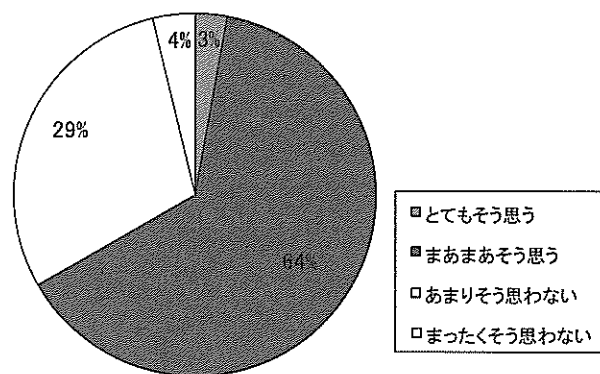


図 12 授業改善への授業アンケートの貢献度

アンケートが直接的に影響を与えていることが示された。

最後に、授業担当教員が、自身の授業改善努力が結実したと実感できるのはどのようなときかという問いを行った。回答は複数回答で、回答者数は103名であった。

回答が多かった項目としては、「最初から最後まで、学生の出席率がさほど低下しなかった」が27 (26.2%)であり、これに、「学生とのコミュニケーションがスムーズに展開するようになった」の21 (20.4%)、「私語や居眠りをする学生が減った」と「質問に来る学生の数が増えた」の16 (15.5%)が続いた。一方、「履修登録者全体に対する最終試験の出席率が高くなった」と回答した者はおらず、最終試験の出席率は授業改善とは関係ないものとして捉えられている。また、「自身の授業に対する「授業評価アンケート」の結果が、より良くなった」と答えた者は14名 (13.6%)に留まり、授業アンケー

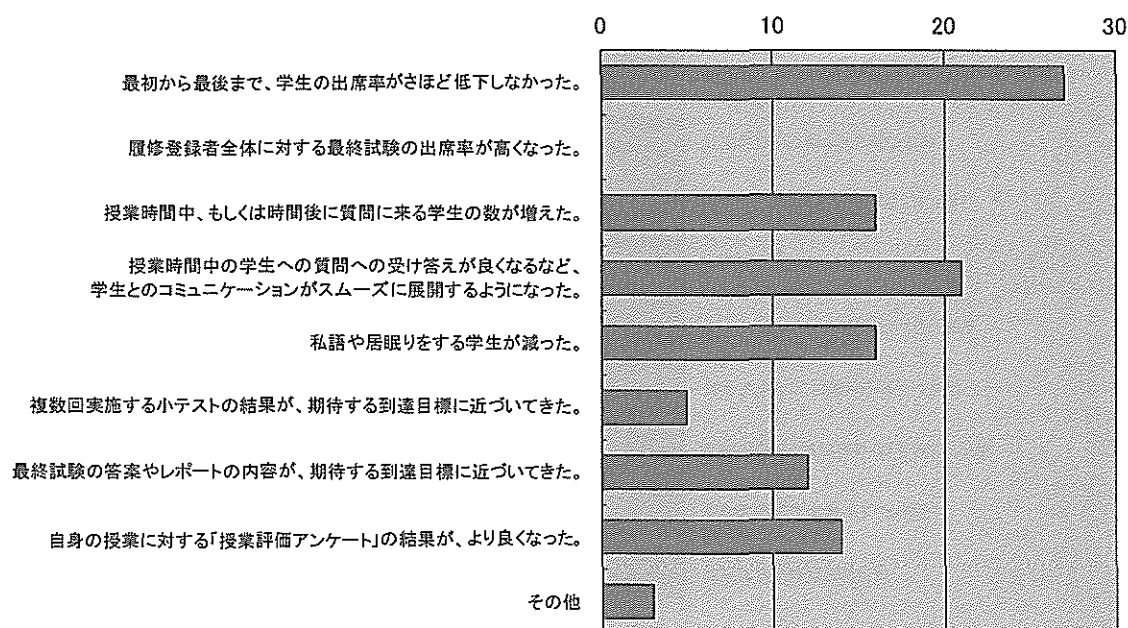


図 13 授業改善への授業アンケートの貢献度

トへの学生の回答がそのまま授業改善の指標として捉えられていないことが見て取れる。

全体的に見て、教員は、試験やレポートの結果、そして授業アンケートの結果よりも、学生の授業に対する積極性をもって教育改善の効果を把握していると考えられる。現在、授業アンケートには出席の割合と予習復習時間があるが、学生の積極性を測るために、他に指標がないかどうかを検討する必要がある。

最後に、自由記述として、各教員がどのような授業改善を行っているかについて自由記述の結果をそのまま掲

載する（参考資料1）。なお、個人名がわかるような記述は伏せてある。

3.6 授業種別による分散分析

以上の質問項目への回答について、属性による差を統計的に検定したところ、ほとんど差は見られなかった。唯一、属性による差が見られたのは、授業の種類であった。

授業の特性から、基礎教養科目、現代教養科目、国際教養科目1、国際教養科目2、先端教養科目を教養教育

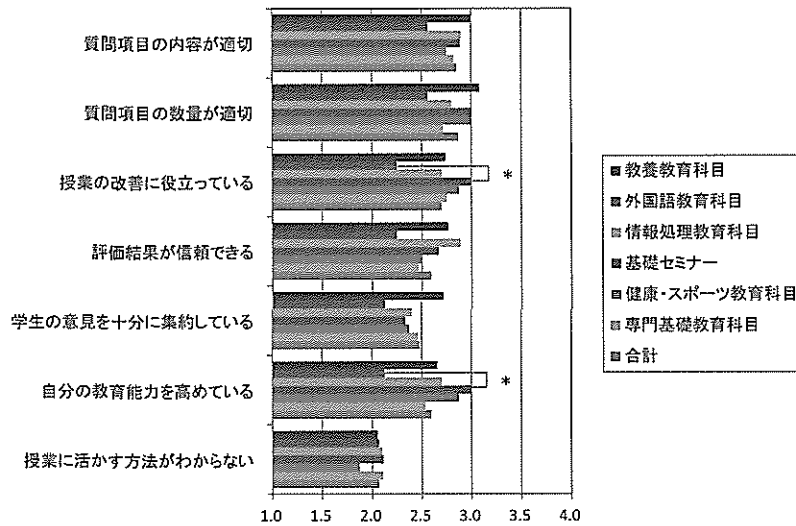


図 14 授業アンケートに関する評価の授業種別比較

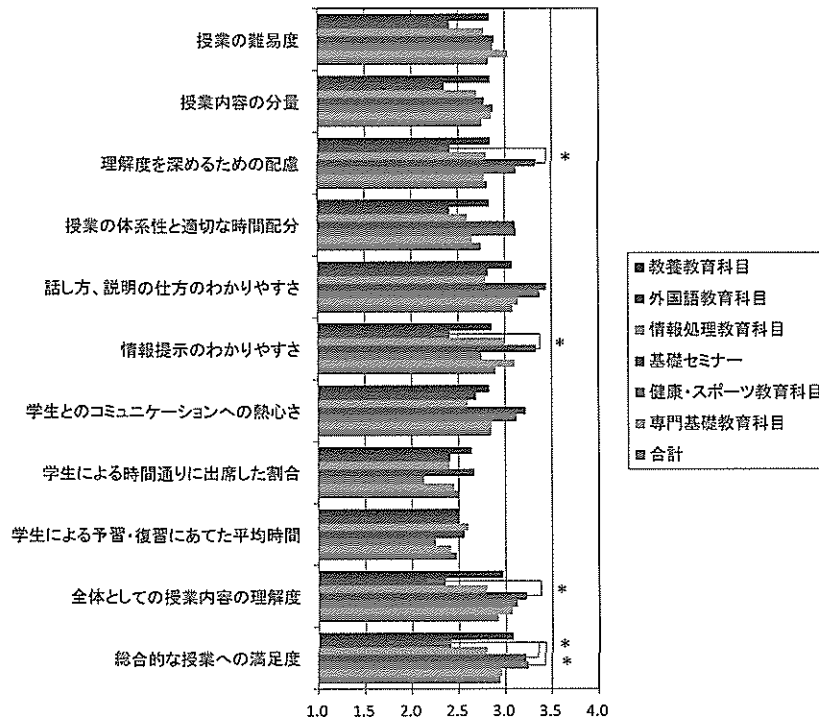


図 15 質問項目が授業改善の参考になった程度の授業種別比較

科目として一つのカテゴリーとし、それ以外の授業はその特殊性から別のカテゴリーとして扱った。すなわち、外国語教育科目、情報処理教育科目、基礎セミナー、健康・スポーツ教育科目、専門基礎教育科目である。このうち、情報処理教育科目、基礎セミナー、健康・スポーツ教育科目のサンプル数がやや少ないが、それ以外はおおよそ20～50のサンプル数となっている。

授業アンケートの評価について、授業の種類を要因とした分散分析を行うと、いくつかの質問項目で有意差が見られた(図14)。そして平均の多重比較を行い、明らかになったのは、外国語教育科目に関しての授業アンケートの評価が軒並み低いという点である。「授業の改善に役立っている」、「自分の教育能力を高めている」の項目で、ともに基礎セミナーよりも有意に低い値が示されている。

また、質問項目が授業改善に役に立った程度に関して、「理解度を高めるための配慮」、「情報提示のわかりやすさ」、「全体としての授業内容の理解度」といった項目で基礎セミナーよりも低い値となっており、「総合的な授業への満足度」に関しては、基礎セミナーと健康・スポーツ教育科目よりも低い値となっている(図15)。

これらのことから、外国語教育科目の特殊性が質問紙調査から明らかとなった。教員からの評価が低いその理由について、詳細に検討する必要があるだろう。

3.7 授業アンケートの良い点、問題点、改善を要する点

最後に、授業アンケートの良い点、問題点、授業改善に資するために授業アンケートとして改善を要する点について自由記述をしてもらったので、そのまま掲載する(参考資料2)。なお、個人名や科目名等が特定できる箇所については、伏せ字とした。

4. まとめ

本調査研究は、共通教育における「授業改善のためのアンケート(授業アンケート)」の改善、および今後のFD活動の充実への資料を提供することを目的に実施されたものである。

集計の結果、以下のことが明らかとなった。授業評価や授業改善の在り方については、まず前提として、本アンケートに回答した教員であることから授業改善に積極的な教員の意見と考えられるものの、多くの教員は授業評価の結果に興味を持ち、そして日頃から授業改善の努力をしていることが明らかとなった。しかしながら、そ

れは学生の意見にそのまま合わせるというものではなく、自分の教育観を基にした授業改善の中で、その進捗や学生の反応を知る手段として授業アンケートや学生の意見を採り入れつつ改善を進めていくという姿が示唆された。

授業アンケートの結果へのアクセスについては、自身の担当の授業の学生によるアンケート結果をKOAN上で見ること自体が完全に認知されておらず、そこに最初の壁が存在していることが明らかとなった。本アンケートに回答した者は授業アンケートや授業改善に積極的な教員であると考えられ、KOANで見ることができる人はそれほど苦もなく授業アンケートの結果まで到達できている。しかし、KOANで見られることが分かっているにもかかわらず、毎回見ていない人もおり、「面倒」と感じることももう一つの要因になっているであろうことが示された。

授業アンケートと質問項目の内容については総じて肯定的であり、また結果を授業改善に活かす方法にも肯定的意見が得られた。また、各質問項目が授業改善に役立つ度合いに関しては、総じてすべての質問項目に対して肯定的意見が得られた。このことは、過去の授業アンケートの結果から重要な質問項目を抽出したものが現行の授業アンケートとなっていることから当然の結果でもあり、今後は、質問紙に含まれない重要な要因がないかどうかを継続的に確認するとともに、要因間の関連等についての詳細な分析が求められる。

授業アンケートと授業改善の関係および授業改善の方法については、授業アンケートの結果が授業改善に幅広く活用されていることが明らかになった。その方法は、授業内容をわかりやすく、そして話し方や説明の仕方を工夫するという基本的なものであり、その他、配付資料や学生とのコミュニケーション等々、様々な手立てや道具でそれをサポートし、改善しているものと考えられる。今後、より教員の授業改善に活かされる授業アンケートの設計として、これらの授業内容や説明の仕方のチェックに重きを置くことも1つの改善方策として考えられる。しかし、「授業アンケートの結果を参考にしたことで、授業改善の努力が実際に実を結んだ」と考える者はまだ十分ではなく、この値を高めていくことが必要である。

そして、教員は、試験やレポートの結果、そして授業アンケートの結果よりも、学生の授業に対する積極性をもって教育改善の効果を把握していることが示唆された。出席の割合と予習復習時間に関する主観評価以外に

も、学生の積極性を測るために、他に指標がないかどうかを検討する必要がある。

また、授業種類による分散分析の結果から、外国語教育科目における授業アンケートの評価が総じて低いことが明らかとなった。

以上のような結果をもとに、今後、授業アンケートを継続的に改善し、教員の授業改善に資するものとしていく必要がある。しかし、本アンケートの結果からも明らかのように、実際には授業アンケートを見ていない教員が多くいることも事実であり、また回収率が20%であることから、授業アンケートを見ていない教員の意見がこの報告書には十分に反映されていないものと考えられる。今後、否定的に答えた者の状況とその理由を究明していくことを通じて、本アンケートに回答していない

人への対応も有意義なものとなることが期待される。自由記述にある意見も参考にし、また調査できなかった隠れたニーズにも着目しつつ、実際の各教員の教育改善のニーズに見合った授業アンケートを構築していく必要がある。

謝辞

本調査研究にご協力をいただいた共通教育を担当されている先生方に深く御礼申し上げます。なお、本稿における結論や意見は筆者らが分析データ等から導いたものであり、必ずしも大阪大学ならびに同大学教育実践センターの公式見解と一致するものではない。

【参考資料1】自由記述（最も大きな改善を図った例）

身近なこと、日常的な事柄との関連を述べ、学生の興味を引き、モチベーションを高めようとした。
頻繁に演習の課題を出した。
この講義(〇〇)は、前年度の講義(〇〇)と連携しているものであるが、単位を取っていても前の講義の内容を理解していないものが多い。従って、その改善として、今回の講義の初めのところで多少オーバーラップさせて講義を行っているが、それを断っても、アンケートには内容がダブっているとか、内容が少ない言うものがある。そういうものに限って、前の講義のことを理解していないのではと思う。
理工系の学生にわかりやすい例を随所に導入するようにした。
授業アンケートを見ての改善ではないが、心がけていること。 ・ 今年の内容(講義、実験、〇〇見学の3柱)に関し下記を付加して充実させた。 ・ 授業(〇〇)に関する日ごろのマスコミ記事やビデオを見せ現状の問題点を示した。 ・ 〇〇大学〇〇学部の〇〇見学を付加し、見学内容を豊富にした。
昨年度のアンケート結果で、「コメントシートに書いたことに対してもう少しフィードバックが欲しい」という意見があったため、今年度は毎回コメントシートを返却する際に、回答の集計結果や「光るコメント」の紹介などにより、フィードバックを試みた。
板書を消すタイミングをやや遅くする。
専門の学生に対する専門の教科以外では、ITを使うことをなるべく控え、板書と補助資料(プリント)を中心とした授業をこころがけるようになった。
スライドの見やすさ:教室の照明に気配りをし、パワーポの文字を大きくした。 ※授業アンケート+直接聞いた意見による改善であって、アンケートだけから導き出されたわけではない。 ※それ以外は評価された部分を伸ばしたという意味での改善です。
声が小さいという指摘が多かったので、マイクを使用し、声が教室中に響くようにした。
年次ごとに、授業内容を検討し、入学者の状況へあわせていくようにしている。
板書の見やすさ(教室のレイアウト上、下部が見にくい)の指摘を考慮し、改善した。
書画カメラでのプレゼンをプロジェクターでのプレゼンに変更した点。 学生から見辛いと苦情を元に変更した。
板書、プリント配布、小テストの難易度について、学生からの指摘を考慮して調整した。
シラバスの作成時にできるだけ学生が興味を持てる内容に心がけ、それを講義資料や内容に反映させた。
学生の発表の機会を作った。
理解をするための学生間の話し合いの時間を取った。
頻繁に試験をするのみならず、その範囲を明確に指定するようにした。
講義内容の Web での掲載
〇〇〇〇など。パワーポイントなどコンテンツが学生の興味や理解を深めたと思う。
毎回の授業での小テスト実施と、間違えた問題に関するレポート提出
配布資料の改良
通常の授業進行以外にも、学生同士のコミュニケーションをとる時間を設けた。
授業時間配分、特に、必要な内容はむりなく消化しつつ、授業の延長をしないこと。
「〇〇〇〇」において、内容を詰め込みすぎた感があり、学生の消化不良が起こっていたことをアンケートで知り、内容の取捨選択を行った。
理解を深めるため、導入的なテキスト以外の課題を与えた
受講生の自主性、一方的に教えるのではなく教え学ぶ。
よい教科書を用いたようです(笑)
「受講生はお客様」というよい意味でのサービス精神を旺盛にし、魅力的で、「単位が出なくても受けてみたい」という授業にしたいと日々努力するようになった。
良いことかどうかは別として、内容の繰り返しで欠席者にも対応

出席確認を兼ねて小テストを(なるべく)毎行なうようにしてみた(試みとして)。今のところうまくいっているようで気に入っている。(質問9の選択肢にあつて気になったのでコメントするが)小テストについて、わたしは理解が不十分な段階でどこかの理解が不十分かを学生自身が認識する「手助け」のために行なっている。質問9の選択肢では、小テスト=(こまめに行なう)中間試験、というような位置付けをしているようだが、必ずしもそういうものではないことに注意を促したい。個人的な意見としてさらに言えば、そういう考え方(「期待する到達目標」というような表現をしてしまう考え方)は成果重視につながる見方で、およそ(一般教育を含めて)学問を教えている場に相応しくない考え方だと思う。
ビューワーの使用により、顕微鏡像など口頭では伝えられない内容を示すことにした。
見やすい板書の仕方 講義最初に、前回の概要復習と当日講義の項目板書
今の学生は指示しなければほとんどノートをとらないようである。かといってプリントを配布することは外国語科目には馴染まない。「板書をもっとしてほしい」という感想が書かれていたのを受けて、重要なポイントは板書をする、また、学生に「ここはノートをとっておくこと」という指示をするように心がけている。
難易度を調節した。
実習中心ですが、配布資料を、後ろ向きな考え方かもしれませんが、授業を聞いていない人でも分かるように細かく手順などを書くようにする。
授業がカバーする範囲が広いので、内容を詰め込んでいたが、逆に学生の理解度が低下していることに気づいたので、内容を厳選して、余裕のあるペースで授業を進めるようにした。
授業最後の質問カードに対して、次回の講義で回答する。
難しい内容を省き、理解しやすい内容とした。
黒板に書く字を大きく、説明は間をおいて行う。
スクリーンに投影する資料の文字を大きくした。
問題を解いてもらい、その答案を時間をかけて丁寧に添削しました。また、学生のできている点・できていない点を詳しく解説したプリントを配布しました。
配布資料の見直しを行った。
板書を消すタイミングが早すぎたのを改善した。
板書を丁寧に心掛けることは確かに重要だが、そうするとことによって貴重な時間が板書を丁寧に書くということにのみ費やされているとも感じられ、その時間が惜しいと思うジレンマもある。
CMCの画面書き込みのシステムを使ってスライドにメモを入れながら説明した、PC操作画面を映して学生に例示した
教科書から厳選した例題を overhaul して、学生がまねできる形に再構成した。
受身にならないよう、手元に成果の残る実習をし、自身が作り上げることで内容を理解し、印象に残る内容になるよう配慮しました。
Power Point を用いて補助教材を提示
学生との対話
「東洋の歴史」の講義で、「授業アンケート」の結果をうけて、授業内容をかなり整理し、教える分量を削減した。
授業支援システムを用いて、毎回授業終了後に学生ひとりひとりに意見、学習状況などの簡単な記録を提出させ、それに対するコメントを必ず返すようにした。
達成度の遅い学生に個別に指導を行った。
板書しながら話さない
第1期のアンケートの結果を読み、第2期講義の進捗の注意の仕方や、配布資料のあり方を改善した。
できるだけ学生の反応を見るように心がけた。
学生が当該科目を難しいと思っていることが分かったので、授業進度や資料を見直し、より平易な言葉で説明するよう心がけた。この科目を担当した当初は、あれもこれもとよくばって話していたが、学生は2セメでより高度なことを勉強するので、当該科目はベーシックなことに徹して話すので構わないのだと思っている。
板書をきれいにかくこと
学生に対して積極的に質問を投げかけるようにした。

【参考資料2】自由記述

(授業アンケートの良い点、問題点、改善を要する点)

学生の考え方が非常に保守的で、学ぶことに対してモチベーションが低い消極的である学生が目立つ。試験の合格点をとることにやけに敏感で、自分のすぎるアップのためと考えているとは思えない学生が目立つ
学生がアンケート記入と自身の授業への参加の実態や努力との緊張関係が重要だと思う
私は学外の〇〇であり、KOANをどうして見るのか教えてほしい。学内向けだけでなく、学外の講師のことも考えてほしい。
専門科目では標準化した授業アンケートを取るようになってきているが、共通教育科目ではそういうのではないと思っていたので、専門科目アンケートを真似て自分で独自にアンケートを取って改善に役立てたりしていた。しかし本アンケートによりこういうのがあることを知ったので、今後は活用したい。
授業アンケートは非常によいシステムであると思います。むしろこれをきちんと活用して人事考課にも使用するべきだと思います。
前期にセミナーを担当の為、現在はKOANのID権限が切れており、残念ながら学生の授業アンケート結果を見ることができませんでした。来年4月にアンケート結果を見て、H22年度の基礎セミ授業の内容や方法に反映させたいと思います。
授業に対する不満点をしっかり書いてもらうようにしてほしい。学生の不満点を参考に授業内容の向上を図っていきたいと思う。
分かりやすい授業が果たして学生のためかどうか、疑問を持っている。分かりやすい授業は多くの場合、水準を落とした授業であるからだ。また、学生が将来立ち向かわなければならない問題は決して分かりやすいものでないため、学生が「分からない」ことに慣れていないことは致命的であると思う。ただ、教員は分かりやすくなくても熱心に教えることは必要であろう。その点の監視としてならアンケートは意味があると思う。
授業のペースが速すぎるかどうかを、ITが授業で使われているかどうかと関連づけて調べたら、学生の理解度に応じて使うべきかどうか判断できてよいと思う。
たいへん失礼ではありますが、授業アンケートだけでは改善の参考になりにくいのではないかと思います。これに直接学生から聞いた意見を組み合わせることで、効果が出てくると認識しています(ですから、授業アンケートを実施する意味は大いにあると考えます)。「標準的アンケート+教員独自の工夫による授業改善」というシステムが構築できると良いのかなと思います。
各科目の担当者にまかせきりにしないで、アンケートの回答を科目ごとではない視点から総合的に分析を、(できれば専門家が)すべきだと思う。
回答率がまだ少ないので、上げる仕掛けをつくることはできないでしょうか。
授業アンケートの締め切り後に、概要でもいいので、メールでその内容を送ってもらえると、どれどれ、とウェブでの詳細をみる気持ちになりやすい。 仕事にかまけてすぐ忘れてしまうので。
先にも述べたが、この種のアンケートが多すぎて、学生が食傷気味である。少なくとも、各学部が行うアンケートと重複しないように、お互いが相互のアンケート結果を提供し合うように調整すべきである。
難易度については大学の学問である以上、難しいのは当然であるので、仕方ないと思われる側面があることも理解してもらいたい。それを理解させようとする教員の努力をちゃんと反映できるようなアンケートにしてもらいたい。単に「難しいですか(でしたか)」では、先端的な内容を話した場合、「難しい」という回答がでるのは当然であり、何の情報にもならない。
学生の授業アンケートの回答率がよくありません。 そのため、一部の学生の声しか反映していないように思います。
学生の要望があれば具体的に書かせる 少し怖いですが、点数として評価させることも今後検討が必要
公開期間が限定されていて、知らぬ間に公開終了になっていて参照できない。
同一のクラスの何人がそのアンケートに回答したかが問題である。一部の学生しか回答しないアンケートでは、特定の学生の意見のみがとりあげられるきらいがある。
授業アンケートを行った結果をどうするか、議論する場が必要かもしれない。
自主的にアンケートに答えてくれるならいいが、そうでない場合は深く考えずに適当な内容を答える可能性もあり、それに振り回されるのは逆に授業の質を落としかねない。個々のスペシフィックな感想よりも、学生全体の傾向などがわかるアンケートにして欲しい。

回答数が少ないのはどうかと思う。積極的に授業に取り組む学生の方がアンケートに答えているのかもしれない。
授業アンケートを回答する学生の数が少ない。
健康・スポーツ教育科目の教育内容と目的にそぐわない質問項目があるので(これは実習中心の科目だと他にも当てはまると思います)、改善を期待します。よろしくお願いします。
授業は数人の教授が分担して行うため、具体的にどの授業が良く、また悪かったのかが、現在のアンケート方式では不明である。
回答率がもう少し高いとさらに有用だと思います。
回答選択肢は そう思うが1 そう思わないが4 になるように設計したほうがよかったですと思います。人間科学部の質問票では通常はそうしてあります。
教養科目に出講してもノルマ外なので、教員のインセンティブが全くない状況は改善すべき。ノルマ換算してもらえらるのであれば、今以上に工夫をこらすインセンティブができる。
ランダムに電話のほうが良いのでは
授業アンケートの設問、このアンケートのような「授業アンケート」自体についての意識調査、またその結果からみた総合所見、等の中で「期待する到達目標」という表現を使うことはやめてほしい。およそ(一般教育を含めて)「学問の場」に相応しくない品のない表現であります。
ビデオやコンピュータなどを使用する場合、不便なことが多い。センター備え付けのコンピュータが古すぎる。プロジェクターが動かないこともある。教室使用について教員より意見を収集し、常時改善を施すようにするべきではないか。
項目が多すぎてポイントがつかめない。 アンケートの選択肢があいまいで、私が学生なら多分どう答えていいかわからない。 むしろ自由記述欄を充実した方が効果的ではないかと思う。
基礎セミナー等の少人数講義では、学部名を入力させるとかなりの割合で個人が特定できてしまい、正直なアンケートにつながらない恐れがある。学部名は自由入力(又は入力の要否を教員が指定)してはどうか。 他の講義で「アンケート、別に入力しなくてもいいよ」等の発言をした教員がいたらしく、アンケートの回答を強く要請した私の講義との違いを学生に質された。このあたりのことはもう少し統一をはかってほしい。
授業アンケートは参考にしているものの、全員がそれに答えることになっていないため、その信用性には若干の疑問がある。また授業アンケートを改善し、それをもとに共通教育賞の受賞者を決定すべきと考える。
このアンケートに回答するに当たり、はじめて「授業評価アンケート」を見ました。 これからは、「授業評価アンケート」を見て、授業改善の参考にするよう努めます。
授業アンケートが見られることを認識していませんでした。すみません。
長すぎ。みなさん、こんなアンケート、どこまでまじめに付き合っているのか、興味があります。次回は、アンケートのためのアンケートのためのアンケートでもやってははどうでしょう。
受講者のほとんどが確実に回答しているという保証があれば、もっと思い切った改善に取り組むことができるが、現状ではその点が不確かなので、大きな変更がしづらい。少数意見であっても批判的なコメントを受け止めて改善しようとはしているが、1つの点についても学生の意見も割れることがある。その原因の1つは受講者数が多いことにある。また、100名以上を相手にする授業では、コミュニケーションを重視した取り組みはかなり難しい。取り組んでいる先生もおられるが、理系科目の場合、到達目標がかなりはっきりと決められているため、とれる自由度が少ない。よって、文系科目との評価比較においては、その点を考慮すべきかもしれない。
不真面目な学生の授業アンケートを別に集計すべきである。例えば成績別にアンケート集計をして欲しい。今のアンケート形式は、安きに流れる雰囲気をもたらし、危険性がある。
そもそも、アンケートの答えている学生の数が多くないので、回答率をあげるようにしないと、一部の学生の意見だけになってしまうと思う。
選択式の設問は、漠としているのでよほど悪い結果を受けない限り改善の余地を見つけにくい。 なので、結局自由記述に頼っている。
アンケート項目に、学生自身の学習態度に関する評価項目を取り入れてほしいです。
全体の質問項目はそのままに、その場その場の「わかりやすさ」、「楽しさ」を聞く項目ではなく、「将来のことを考えて、真に有意義な授業だったかどうか」を聞く質問項目を充実してほしい
授業改善のために学生から時間労力を提供してもらうのなら相応の対価を支払うべきと考えます。履修上の特典のようなものが現実的だと思います。
学生の評価を100%そのまま取り入れればよいというものではないと考える。 それでは単に「ウケ」を狙えばいいということになってしまう。 学生の意見を参考に、教員独自のメタ的な分析を行って、よりよい方法を模索すべきだ。

アンケートを教員の給料あるいは業績、能力などの評価に使うことは避けてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・KOANの授業アンケートについては、工学部の授業に対するアンケート結果は以前から見ているが、回答数があまりにも少なく(回答率5~10%)、見ても意味がないと感じていた(ので、共通教育の授業については見たことはありません) ・教員がアンケート結果を閲覧するために、PCの画面と向き合い、所定のサイトに入る必要があることが多少、面倒に感じる(苦になるというほどではないが) ・一方、入力する側の学生は、わざわざ教室を離れたところでPCの画面と向き合わなければならず、大変な手間になると思います
学生の主観的な印象を訊くだけにしかなっていない。好き勝手なことを書いている記述を見ると、うんざりすることがある。教員に責任転嫁するようなよくない傾向を生みだしていることはないのだろうか。アンケートは役に立たないので、改善点は自ら授業の枠内で訊いている。
講義を受ける人数は適当であるかという項目があつていいと思う。
授業アンケートは、種々議論はあるかと思うが、やはり記名式にした方が良いのではないか。授業中に取る講義への感想も、記名式でもかなり正直に書く受講生が多いので、記名に対する抵抗感はあまり無いのではないかと考える。
<p>授業改善を目的とするのであれば、毎授業、あるいは学期の途中に数回実施し、できる改善はすぐに行う、あるいはできないのならその理由を伝えるようにしたほうが良いのではないだろうか？</p> <p>現状では、学生は、大きな労力を使って多数の授業のアンケートに答えるが、その労力にみあった効果がないと感じているのではないか？</p>
授業アンケートは授業が終わってからでは遅いのではないか？授業中に行ってフィードバックを書けるべきで、その意味では遅すぎると思います。
学生から授業改善の方法を提案してもらえよう。(自由記述にだれか書いてくれるかもしれないと期待するのはなく)項目として設定してしまつてはどうでしょうか。荒唐無稽な実現不可能な事を書かれるかもしれないのは織り込み済みと考えることにして。
自分がどうかだけではなく、他の授業や授業科目全体など、共通教育の全体像を知りたい。レポートは見に行くのが面倒なので送って欲しい。
悪い点 全員がアンケートに答えているわけではないので、必ずしも多数の意見を反映しているわけではない点

【参考資料3】質問紙

共通教育における「授業改善のためのアンケート」の活用に関する意識調査

2009.12.8

大学教育実践センター 高等教育研究開発部門

本アンケートは、大学教育実践センターが履修学生を対象に実施している「授業改善のためのアンケート」について、授業内容・方法の改善に向けての有効性に係る検証を行い、各種FDの取組に資する内容とすることを目的に、平成 21 年度前期開講の全学共通教育科目をご担当されている先生にご協力をいただき、実施するものです。本調査の結果は、大学教育実践センターの web サイト等を用いて先生方にもご報告いたします。個人を特定することはいたしませんので、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

アンケートへの回答は、平成 21 年 12 月 21 日(月)までに、以下の方法のいずれかでご提出ください。

(方法 1): 以下のアドレスにアクセスし、web 上でご回答ください。

<http://enq.cep.osaka-u.ac.jp/teacherenq/>

(方法 2): 本ファイルに回答を入力し、replyenq@cep.osaka-u.ac.jp 宛に添付ファイルでお送りください。

(方法 3): 本ファイルを印刷し、ご回答の上、大学教育実践センター・齊藤宛に学内便でお送りください。

なお、この件に関しましてご不明の点等ございましたら、大学教育実践センター・教育実践研究部・高等教育研究開発部門(担当:早田幸政・齊藤貴浩、e-mail: replyenq@cep.osaka-u.ac.jp)までご連絡ください。

本調査の趣旨をご斟酌いただき、ご協力いただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

以下の設問につき、複数の共通教育の授業を担当されている場合でも、回答は 1 回だけで結構です。本調査の趣旨から、ご自身が最も適当と考える授業を 1 つ選び、ご回答ください。

質問 1. ご担当する授業についてお答えください。

(1) あなたが共通教育で担当された授業の種類は何ですか。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> a) 基礎教養科目 | <input type="checkbox"/> b) 現代教養科目 |
| <input type="checkbox"/> c) 国際教養科目1 | <input type="checkbox"/> d) 国際教養科目2 |
| <input type="checkbox"/> e) 先端教養科目 | <input type="checkbox"/> f) 外国語教育/日本語教育科目 |
| <input type="checkbox"/> g) 情報処理教育科目 | <input type="checkbox"/> h) 基礎セミナー |
| <input type="checkbox"/> i) 健康・スポーツ教育科目 | <input type="checkbox"/> j) 専門基礎教育科目 |
| <input type="checkbox"/> k) その他/不明 (具体的に科目名を記入してください: _____) | |

※ご記入いただいた内容は、授業の分類以外には用いません。

(2) その授業で教えられている内容は何ですか。

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> a) 理系的内容 |
| <input type="checkbox"/> b) 文系的内容 |
| <input type="checkbox"/> c) 理系文系にとられない総合的内容 |
| <input type="checkbox"/> d) 判断できない (具体的に授業内容を記入してください: _____) |

※ご記入いただいた内容は、授業の分類以外には用いません。

(3) その授業の形態は主に何ですか。

- a) 主に講義 b) 主に演習 c) 主に実験
 d) オムニバス形式の講義の一部を担当
 e) その他（具体的に授業形態を記入してください： _____)

※ご記入いただいた内容は、授業の分類以外には用いません。

(4) その授業では、何名程度の学生を教えられましたか。

およそ （ _____ ）名

※ご記入いただいた内容は、授業の分類以外には用いません。

質問 2. いわゆる学生による授業評価、そして授業改善のあり方についてどのようにお考えですか。

- | | まったくあてはまらない | あまりあてはまらない | まあまああてはまる | とてもあてはまる |
|-------------------------------------|-------------|------------|-----------|----------|
| 1) 学生による授業評価の結果に興味がある ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 授業改善は学生の意見を基にして行われるべきではない ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 授業評価だけではなく学生の意見を常に取り入れている ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4) 授業の改善は教員自らが自らの教育観で行うべきである ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5) 自分の授業はそもそも改善する必要がないと思う ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6) 自分の授業に関しては日頃から授業改善の努力をしている ----- | 1 | 2 | 3 | 4 |

質問 3. 大学教育実践センターの実施した、学生による「授業改善のためのアンケート」
 (以下「授業アンケート」と表記)の結果の提示についてお聞きます。

1) ご自身の担当された授業の「授業アンケート」の結果を、KOAN上で見ることができることを

- a) 知っていた
 b) 知らなかった } (b)と答えた方は(4)の質問にお進みください

2) 「授業アンケート」の結果を KOAN で見る方法は

- a) 簡単である b) やや難しい c) 難しい d) とても難しい

3) 「授業アンケート」の結果を KOAN で見る手間は

- a) 面倒とは感じない b) やや面倒である c) 面倒である d) とても面倒である

4) 「授業アンケート」の結果を、KOAN や報告書等でご覧になったことがありますか。

- a) 毎回見ている
 b) 時々見ている
 c) ほとんど見ていない
 d) まったく見たことがない } (a)、(b)、(c) と答えた方は次の質問 4 にお進みください
 d) まったく見たことがない } (d)と答えた方は質問 10 (4 ページ) にお進みください

質問 4. <上記「質問 3-(4)」で、(a) (b) (c) のいずれかを答えた方にお尋ねします。>
 大学教育実践センターが行う「授業アンケート」について、どのようにお考えですか。

	まったく あては まらない	あまり あては まらない	まあまあ あてはまる	とても あてはまる
1) 授業アンケートで挙げられている項目の内容は適切である	1	2	3	4
2) 授業アンケートで挙げられている項目の数量は適切である	1	2	3	4
3) 授業アンケートの結果が授業の改善に役立っている	1	2	3	4
4) 授業アンケートの結果はデータとして信頼できる	1	2	3	4
5) 授業アンケートの結果は学生の意見を十分に集約している	1	2	3	4
6) 授業アンケートの結果は自分の教育能力を高めている	1	2	3	4
7) 授業アンケートの結果を授業に活かす方法がわからない	1	2	3	4

質問 5. 以下に挙げる「授業アンケート」の各項目は、ご自身の授業改善にどの程度参考となりましたか。

	まったく 参考に ならない	あまり 参考に ならない	まあまあ 参考に なる	とても 参考に なる
1) 授業の難易度	1	2	3	4
2) 授業内容の分量	1	2	3	4
3) 理解度を深めるための配慮	1	2	3	4
4) 授業の体系的性と適切な時間配分	1	2	3	4
5) 教員の話し方、説明の仕方のわかりやすさ	1	2	3	4
6) 情報提示のわかりやすさ(黒板、スライド等)	1	2	3	4
7) 学生とのコミュニケーションへの熱心さ	1	2	3	4
8) 学生による授業への時間通りに出席した割合	1	2	3	4
9) 学生による授業の予習・復習にあてた平均時間	1	2	3	4
10) 全体としての授業内容の理解度	1	2	3	4
11) 総合的な授業への満足度	1	2	3	4

質問 6. ご自身の授業において、「授業アンケート」の結果を参考にどのような授業改善を図られましたか (複数回答可)。

- a) 授業内容を分かりやすくするよう心がけながら、授業を進行するようになった。
- b) 到達目標の達成度や学生の理解度を確認するため、頻繁に小テストを行うこととした。
- c) シラバスに示した体系的な授業計画に準拠して、実際にこれを展開した。
- d) 学生とのコミュニケーションを重視する対話型の授業を積極的に取り入れた。
- e) 配布資料の内容を充実させ、また、その様式に工夫を加えた。
- f) IT 機器を用いて授業を行う等の授業上の工夫を行った。
- g) 話し方・説明の仕方に工夫を加えた。
- h) 板書を丁寧に行うようになった。
- i) その他(具体的に: _____)
- j) 特に授業改善はしていない。

質問 7. 授業改善を図られた場合には、1つだけで結構ですので最も大きな改善を図った例を簡潔にお教えてください。

※この設問に限り、共通教育の授業であれば、ご自身が担当されたとの授業に関することでも構いません。また、差し障りがなければ、改善を図った担当科目名もご記入ください。

質問 8. 「授業アンケート」の結果を参考にしたことで、授業改善の努力が実際に実を結んだと思われますか。

- | | | |
|--|---|---|
| <input type="checkbox"/> a) とてもそう思う
<input type="checkbox"/> b) まあまあそう思う
<input type="checkbox"/> c) あまりそう思わない
<input type="checkbox"/> d) まったくそう思わない | } | <u>(a)、(b) と答えた方は次の質問 9 にお進みください</u>

<u>(c)、(d) と答えた方は質問 10 にお進みください</u> |
|--|---|---|

質問 9. <上記「質問 8」で(a)または(b)と答えた方にお尋ねします。>

授業改善の努力が実を結んだと感じられるときは、どのようなときですか (複数回答可)。

- a) 最初から最後まで、学生の出席率がさほど低下しなかった。
- b) 履修登録者全体に対する最終試験の出席率が高くなった。
- c) 授業時間中、もしくは時間後に質問に来る学生の数が増えた。
- d) 授業時間中の学生への質問への受け答えが良くなるなど、学生とのコミュニケーションがスムーズに展開するようになった。
- e) 私語や居眠りをする学生が減った。
- f) 複数回実施する小テストの結果が、期待する到達目標に近づいてきた。
- g) 最終試験の答案やレポートの内容が、期待する到達目標に近づいてきた。
- h) 自身の授業に対する「授業評価アンケート」の結果が、より良くなった。
- i) その他 (具体的に: _____)

質問 10. 「授業アンケート」に関して、良い点、悪い点、あるいは授業改善に資するために改善すべき点など、ご意見がございましたらご自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。